

ホタルの飛び交う夜を心待ちに

5月10日、古代蓮の里でホタルの放流会が行われました。

古代蓮の里にホタルのすめる環境をつくることを目的としたこのイベントは、今年で11回目を迎えました。参加した子供たちは、普段見ることがないホタルの幼虫に興味津々な様子。参加者はホタルのクイズや手作り紙芝居を楽しんだ後、ヘイケボタルの幼虫約5,000匹を放流し、成長したホタルの飛び交う風景を今から心待ちにしているようでした。



交通事故に遭わないために

4月14日から、市内の小学生を対象にした交通安全教室が行われています。

4月30日には泉小学校で行われ、児童らは学年ごとに道路標識や横断歩道の渡り方、さらには自転車の正しい乗り方などを実際に体験しながら学びました。警察官や交通指導員の話を熱心に聞き、交通ルールを理解することができた児童たち。この日の体験を通して、より一層交通安全への意識を高めることができたようです。



歴史ある行田の足袋蔵の魅力を再発見

5月16日・17日に「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」が行われました。

今回で11回目を迎えるこのイベントは、街なかに点在する16の足袋蔵などを訪れ、スタンプラリーを楽しむというもの。1日目はあいにくの雨模様でしたが、2日目は青空が広がり、着物姿の方や親子連れなど大勢の方が参加し、にぎわいを見せていました。普段入ることができない個人所有の蔵を開放したり、足袋作りの実演や和楽器の演奏などで参加者を楽しませたりと、各蔵それぞれが特色を出しながら、行田の歴史ある建物の魅力を伝えていました。



記念すべき30回目の火の祭典

毎年5月4日に行われる行田の恒例イベントといえば「さきたま火祭り」。今年は記念すべき30回目を迎えたこともあって、市内外から大勢の方が会場となったさきたま古墳公園に詰め掛けました。その数なんと12万人。午後6時30分を過ぎると、古事記に登場する「ニニギノ命」と「コノハナサクヤ姫」が輦に乗って現れ、来場者を神話の世界に誘いました。そして、2人が産屋に火を放つと祭りは最高潮に。フィナーレには450発の花火が打ち上げられ、会場からは大きな拍手と歓声が沸き起こっていました。

古代から未来へ夢をつなぐ行田を歩く

5月9日、忍川とさきたま調節池の美化活動を行いながら、さきたま古墳公園や古代蓮の里などを巡る「忍川美化ウォーキング」が開催されました。

このイベントは忍川沿いに新しく整備された水辺の遊歩道のお披露目を兼ねて、埼玉県・行田市および埼玉県ウォーキング協会の三者が共催したもので、地元の川に愛着を持ち、ふるさとの魅力を実感してもらうことが狙い。コースは2種類用意され、13キロメートルと9キロメートルそれぞれのコースに総勢350人が参加しました。参加者はビニール袋を片手に、川沿いに落ちているごみを拾いながら、緑が豊かな行田の風景を楽しんでいる様子でした。



交通事故ゼロを目指して

5月7日、春の交通安全運動出発式が行われ、行田交通安全協会や行田市交通安全母の会など8団体が一堂に会しました。

工藤市長が「交通安全関係団体と警察と連携しながら、事故のない安心・安全な行田を目指します」とあいさつ。その後、忍城おもてなし甲冑隊による演舞や進修館高校吹奏楽部による演奏などのアトラクションが行われ、出発式に花を添えました。そして、最後に産業文化会館から郷土博物館前にかけて横断幕を掲げながらパレードし、車や自転車を運転する方や歩行者に対して、交通事故防止を呼び掛けていました。

